

## 言葉の背景にある情報を教えるⅡ

渡 部 睦 浩

### I はじめに

教科書 *Sunshine English Course 2* (開隆堂)、Program 3の内容はAustraliaに関するものである。本年度、本校はAustraliaから留学生Isaac Reed君(3年生) [以下インフォーマントR] を受け入れた。Australiaの中学校の教育の現状(もちろん生徒の立場からの情報ではあるが)やAborigines, その他同国特有の動物等について情報を直接得ることができ、大変有意義な経験をした。

同国の学校の様子や日豪の文化の違いについて、授業中に質疑応答を行ったが、その際に生徒が大変興味を持ったrecessとcanteenの2語があった。LDELIC, LMDはそれぞれの語の意味用法を次のように記述している。

**recess:** [U] *AmE* a short pause between classes in a **GRADE SCHOOL** [LDELIC s.v. recess 2]

**canteen:** a restaurant or cafeteria attached to a workplace [LMD s.v. canteen]

インフォーマントRの学校(Australia, N.S.W.州)では1、2校時と3、4校時の間の休憩をrecessと呼び、食べ物を食べても良い。学校には前述のcanteenがある。本校の中学生は、休憩時間に軽い食事やおやつを食べて良いことや、食堂があることに驚きを感じていた。

*Sunshine English Course 2*, Program 3に登場する動物はkoalaとkangarooである。ではkoalaの食べる食べ物は何かであろうか。とっさに「ユーカリの木」という日本語(カタカナ)は浮かんできても、その英語相当語は何かと質問すると、生徒の反応は芳しくない。Nicholson (1993: 213)のkoalaの項目を読めば、次のような記述がある。

Koala: The koala is a tree-dweller, drowsing during the daytime and becoming more active in the evening, and feeding on vast quantities of gum leaves which have a high oil content. This enables it to go without water for long periods of time. The koala is Queensland's animal emblem. (下線は渡部)

このgum leavesとはユーカリの葉のことである。そしてgum treeが実はeucalyptusである(LMD)。従ってeucalyptusは「ユーカリ樹」の意味<常緑高木; 樹皮からゴムを出すので俗にblue gum, gum treeともいう>である(『現代英和』)。

Australiaの食文化の中で重要な意味を持つもののなかにVegemiteがある。これはインフォーマントRによればパンやビスケットにマーガリンやバターのようにつけて食べるもので「国民食とも言える」とのことである。

『英和商品名』によれば「オーストラリアKraft社製のサンドイッチスプレッドで同国の国民食とも言える。」との情報が得られる。実際に、中学生数名と試食してみたが、「日本の食べ物で一番近いものは味噌であろう」という意見が多かった。

### 写真 1

**Vegemite pinwheels**  
These are made from the famous Kraft product Vegemite, a favourite of many Australians. The quantities given will make about 4½ dozen.

2 cups self-raising flour  
1 good pinch of cayenne pepper  
1 teaspoon of dry mustard  
2 tablespoons butter  
1½ cups grated cheese  
½ cup water  
Vegemite



Sift the dry ingredients together. Rub in the butter, and add cheese. Mix to a firm dough with water.  
Turn out onto a floured board, and knead well. Roll pastry into a rectangle. Spread with Vegemite, and roll it into a long coil.  
Cut into pinwheel slices, and place them flat on a greased tray. Bake in hot oven for 15-20 minutes.

麦芽酵母のエキスが主体の野菜抽出物で作られる(『英和商品名』)。前ページの写真(写真1)はNicholson(1993)に載っているVegemiteである。他の英和辞典の中では『ランダムハウス英和』の記述が良く、「〈商標〉ベジマイト：オーストラリアのサンドイッチスプレッドの商標名；イーストから作り、塩味の黒いペースト」となっている。

授業の教材研究の際に、使用しようとする資料にあたっていると、ありとあらゆる情報があり、取舍選択の段階で苦労する。またその情報の信憑性も教材の選考基準に加えると、何を信じて良いのか分からなくなることが時折ある。ではどのような態度・心構えて情報にあたるのがよいのだろうか。

立花 隆というフリーのジャーナリストがいる。彼は執筆の際の心がけとして「懐疑の精神」が必要であるとしている(立花1984:218)。自分が目の前に現実を見ている状態を、感覚器官を経て〈一次情報〉を得ている状態とし、現場にいた人から現場の状況を聞くのは〈二次情報〉となる。さらになにか事件が起き、記者が得た情報は二次情報だが報道された情報は〈三次情報〉となる。記者の情報がさらに加工された場合〈四次情報〉となると彼は言う。

授業の中で生徒に紹介したり、研究の中で手にすることのできる情報の中で、前述の次元で情報を分類した場合、意外に二次情報以下のものが多いのではないだろうか。もちろん一次情報ならばすべて信じていることができるかと言えばそうではない。同じ現象を同じ現場で見たとしても、人によって感じ方や考え方、ひいては記憶の正確さに差があるからである。また不当に事実と結論を結びつけたり、数少ない情報やサンプルから過大な一般化をすれば、情報の信憑性はないものと思わねばならない。また言語のように、時代や地域、ひいては社会情勢によって語義が変化してしまうものは、観察や情報の収集を常にしていないと正確な記述はできないし、語の変遷を記録することもできない。

この稿では、この一年間見聞きしてきた英語の中のいくつかについて、できるだけ立花(1984:228)の言う「一次情報」を利用し、言語の背景にある情報をまとめていく。可能な限り一次情報を得ようとしたが、物理的に情報を得ることが無理なものはインフォーマントに聞くか、辞書等の参考文献をもとに考察したものである。項目によっては資料不足の感は否めないが、「懐疑の精神」を持って読んでいただければ幸いである。

## II ことばとその背景を探る

### 1. 呼称の英語に関する考察

#### (1) 親族名称の使用と呼び捨て

日本では、自分よりも年齢が上の親族を呼び捨てにする場合、それは社会的基準からはずれ、礼儀をわきまえていない行為とされる。若しくは、それが許される場合は「親族の名前を聞かれ、それに答える」等の特別な状況が必要である。では英語を母国語とする社会ではどうであろうか。

比嘉(1982:90-91)には、10歳になる子が父親のことを、Alanと呼び捨てたという事実が収録されている。特にこの傾向はアメリカ合衆国東部の知識階級の一部で見られるという。またパン(1982)にも、例は少ないのだが、親に対して子供が親族名称で呼ばずに、直接呼び捨てにすることがあるとしている。F.C.パンの事例は祖母に対する呼び捨てについてであるが、その理由が面白い。

I don't want to be called grandmother or grandma. It makes me feel old. ———パン(1982:73)

この二つの事例は特別なものである。インフォーマントPに聞いたところ、このような例は今まで知らなかったと言う。英語を学ぶ際に、「どれほどきまり文句を覚え、聞き取り能力を高め、発音の訓練をしたとしても、肝心の会話を支配する規則の探求、発見がなくては、活発な発話行為、創造的な言語活動にはならない。」(比嘉1982:86)という重要な指摘がある。ここでは呼称の英語が使用される際の規則の探求を行う。

(2) 親族名称の役割

親族名称を呼称の際に使用する場合、話し手はどうしても聞き手との関係を意識せざるを得ない。その証拠として次のような例がある。

あるアメリカの社会学者が、米国の若い青年たちが父親に向かってどのようなことばで呼びかけているかを、調査したことがある。その時、一人の青年が自分は父親と議論したり争ったりする時は、決してfatherという呼び掛けをせず、もっぱらyouで押通すといったことを報告している。これなどは、相手にfather!と言ってしまえば、俗に“You shouldn't argue with your father.”と言うように、相手に父としての権威、一家の統率者としての地位などを認めてしまうばかりではなく、自分を子として位置づけてしまうため、両者の間の落差は決定的なものになり、2人はもう平等な人間として争うことが難しくなることを示している。

鈴木 (1982 : 54)

本稿1.(1)で取り上げたパンの場合と重ね併せてみても、呼称の際に親族名称を使用することは、まさにお互いの関係をより明確にしているといつて良い。その証拠に「年齢や親子の関係を意識したくない時には、親族名称の使用が避けられる」という事例が存在する。

(3) 呼称に使用される親族名称

LDELICとLLAとを読み合わせるとfather/dad/daddy/mother/mom (mum)/mommy (mummy)の使い分けについての情報は次のようになっている。

**Father:** a formal word that you call your father [n]

**Dad:** an informal word that you call your father [n]

**Daddy:** an informal word meaning father, used by or to small children.

*Daddy, can I have a drink please? | You don't want it? Give it to Daddy then.*

[LLA s.v. **Father**]

**Mother:** a formal word that you call your mother.

**Mummy** (British)/**Mommy** (American): an informal word for mother used by or to a small child meaning [n] *“Good night Mummy”, said Ben. | Come and sit on Mommy's knee.*

[LLA s.v. **Mother**]

Compare **father, dad, daddy, mother, mum, mummy**. The ways in which sons and daughters address their parents vary from family to family. The most common forms of address are probably **mum** (*AmE mom*) and **dad**. In many families **mother** and **father** are used, but some families consider these terms are too formal. **Mummy** (*AmE mommy*) and **daddy** are also commonly used, esp. by children, but by some adult sons and daughter too, esp. in upper-class families.

[LDELIC s.v. **father** Usage]

インフォーマントPが親族をどのように呼ぶのかを聞いてみると次のような答えが返ってきた。まず父親のことはdadと呼び、決してdaddyとは言わない。理由は小さな女の子がdaddyという語を呼びかけで使う為だと言う。母親にはmomではなくmaを使うが特に理由はないことが分かった。さらにこのような呼称の語の選択はきわめて個人的なものであり、はたして明確な基準を見いだせるかどうか分からないという。しかしながら、インフォーマントRの情報とLDELICの語法の記述とを総合すれば、呼称の語の選択についてある程度の基準は導き出すことができる。さらに同じ発話者でも、直接親族に呼びかける場合と第三者に紹介する際に使い分けがあるのも興味深い。

Daddy—You're my father & I thank God for that over & over again—I love you & am so proud to say  
“He's my Dad!” Love forever, your daughter

Bob Greene, *He Was a Mid-Western Boy on His Own*. Ballantine Books, 1991, p.23

“My mother is so bogus. She told me, ‘You'd better bring more than two. What if one of them breaks?’  
I said, ‘Mom, did you ever hear of pencil sharpeners?’

——Bob Greene, *Cheeseburgers*. Kodansha, 1989, p.51

## 2. Amish

アメリカ合衆国、Pennsylvania州とOhio州を中心として、質素な生活を送っている人々の集団がある。このような人々Amishを『リーダーズ英和』は次のように記述している。「アマン派（の人々）◀17世紀のスイスの牧師J. Ammannが創始したメノー派の一分派；Pennsylvaniaに移住し、きわめて質素な服装・電気・自動車を使用しないことで知られる。▶」。『アメリカ日常語』にも、Amishについて貴重な情報がある。

メノー派（Mennonite Church）の一分派で17世紀に創説されたアマン教の信者たち。オハイオ州、インディアナ州、カナダに集落を作って住んでいるが、最も大きなグループは現在ペンシルバニア州にコミュニティを作っている。

このグループはきわめて宗教的で勤労の精神に富んだ農民の集団であり、現在でも聖書に出てくるような壮重な言葉を話している。非暴力を主義としており、これまでアメリカがかかわってきた戦争のすべてにおいて戦うことを拒否し、またconscientious objector（良心的兵役忌避者）としてこれを認められている。彼らはすべての“modern corruptious”（現代的な堕落）から身を遠ざけているので現在でも電気や下水道を使用せず、テレビはもちろん、ラジオも使わない。自動車には乗らず、交通はもっぱら馬車（horse and buggy）に頼っている。

[『アメリカ日常語』 s.v. Amish]

このように1680年代、1740年代に宗教的迫害をのがれて南ドイツとスイスからアメリカへ渡ってPennsylvania南東部に移住した人々のことを、Pennsylvania Dutch—The Plain People（「ペンシルヴェニア・ダッチ—飾らない人々」と言う（フレックスナー1976）。これらの人々とその宗派・子孫には前述のメノー派、アンマン派の他に、ダンカー派、モラビア派、シェベングフェルト派がある（フレックスナー1976）。また同時に1850年代から一般に彼らの使っていた高地ドイツ語プファルツカ方言に英語が混じった言葉のことも、Pennsylvania Dutchと言う。このDutchとはオランダとは無関係でDeutsch「ドイツの」の意。写真2にはこの文字が見える。またfunnel cakesとは、たねをじょうごなどで渦巻き方に流して焼いたり揚げたりするケーキの意（『リーダーズ英和』）。

写真2



写真3



写真3はAmish country (Ohio州内のもの)と呼ばれる地域の写真。家屋から望める様子を撮影したもので白を基調とした質素な家々が遠くに小さく見える。手前に広がっているのはとうもろこし畑である。写真4は庭に干された洗濯物であり、色合いも確かに地味である。amishの人々は「信仰の厚い大家族」というのが特徴だがその洗濯物の量からも見て取れる。写真5、6が馬と馬車。フレックスナー (1976) によれば、この馬車のことを1845年当時、rockaway (揺れ馬車) と言っていたことが分かる。

写真4



写真5

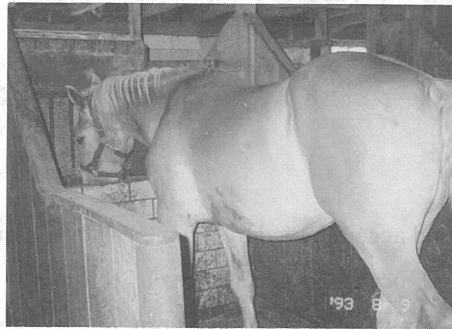


写真6



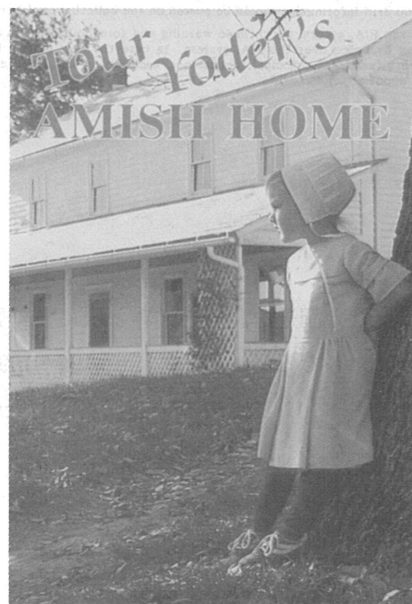
これらの写真撮影は1993年8月9日に行われたが(cf.渡部1993)、人物の撮影はくれぐれも避けるようにと念を押された上での撮影であった。理由は宗教上の理由であるとのこと。インフォーマントMによる説明は、「神が人間を神のように作ったとされている為、人間の写真を撮ることは神の写真を撮ることと同義となり、神への冒瀆を意味する。」とのことである。ところが実際に手にすることのできたAmishのパンフレットにははっきりとAmishの子ども達が写っており拍子抜けした(写真7、8)。またラジオも天候を聞くときのみは使用しているとの情報が得られた(cf.『アメリカ日常語』)。教育に関してはあまり熱心ではない。つまり高度な教育がAmishの子供たちに対して行われた場合、自分たちの生活「現代文明をできるだけ排除しようとした簡素で素朴な生活」に疑問を持ち始めるからである。

AHCDには“An orthodox Anabaptist sect that exists today primarily in suktheast Pennsylvania.”と記されている。このAnabaptist sectとは「再洗礼派の教徒 (sect)」、アナバプティストのことであり(『リーダーズ英和』)、関連語であるanabatismの意味は「再浸礼、再洗礼」を意味する(『現代英和』)。この教義「運動」は幼児の洗礼を無意義とし青年後の再洗礼を主張する(『リーダーズ英和』)。

写真7



写真8



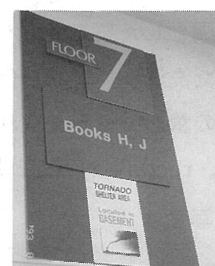
## 3. 気象・天気予報に関する英語

## (1) tornado

日本の台風は～号と「数字+号」で表すが、アメリカのhurricaneには人の名前をつける。「なるべく大暴れしないように」ということで女の子の名前をつけていたが、最近では男女平等の観点から男の子の名前を付けるようになったという(『アメリカ日常語』)。ちなみにhurricaneの語源はカリブ・インディアン語のhuracan「大きな嵐、もしくは嵐の悪霊」がスペイン語に入ってhuracanとなりそれから英語に入った(フレックスナー1976)。

そのhurricaneとならんで北米大陸中西部に多く見られるのはtornadoである。Ohio州KentにあるKent State Universityの図書館には、写真9(前ページ)のような表示が階段と閲覧室を結ぶの壁(上部)に掲示されている。そのtornadoとは、

写真9



a violent destructive whirling wind accompanied by a funnel shaped cloud that progresses in a narrow path often for many miles over the land, occurs in many parts of the world but most frequently in the central Mississippi valley, and is associated with a fall in barometric pressure so rapid that wooden structures are often lifted and burst open by the air confined within them—compare **CYCLONE, HURRICANE**

[Web<sup>3</sup> s.v. tornado 2.b.]

と説明されている。従って大学の図書館の地下室に避難場所があっても不思議ではない。また写真の絵を見ればどんな形態を持つものかがよく理解できる。DAVEY MIDDLE SCHOOL, FACULTY HANDBOOK 1993-94の項目の中にはTORNADO DRILL INFORMATIONなるものがある(資料1)。

## 資料1

**TORNADO DRILL INFORMATION**

When students are in their designated tornado drill areas, they should following the rules below:

1. Stand against the walls that have been designated for them or stand in front of students who may already be standing against the walls.
2. Do not stand in any door area or near exterior windows.
3. Because the building only has certain "good" locations, these locations may be somewhat crowded, so students may be lined up two or three deep against the walls.
4. If you see something that should be changed in the tornado drill instructions, please see the principal immediately.
5. Tornado drill information should be posted on the bulletin board in your classroom.

We will use the P.A. system for tornado warning and tornado drills. An all-clear signal will be given by voice over the P.A. system. In case the P.A. system is not working, staff members (assistant principal, counselors, secretaries, etc.) will notify teachers individually about a tornado drill.

**TORNADO SHELTER AREAS FOR VARIOUS CLASSROOMS****ROOM INSTRUCTIONS****First Floor**

101	Leave room, line up against west wall of hall leading to cafe.
105	Leave room, line up against west wall of hall leading to cafe.
106	Leave room, line up against west wall of hall leading to cafe.
111	Remain in room, line up against north and west walls. (Another class will also use this room.)
Aud	Leave room go to downstairs gym, line up against north walls.
117	Leave room, line up against east wall of hall going to cafe.
Lib	Remain in library, line up against west walls.
Cafe	Remain in cafeteria, line up against west walls.
Down Gym	Leave gym, go to upper gym locker room area.
124	Leave room, go to upper gym and stand against wall.
123	Leave room, go to upper gym and stand against wall.
122	Leave room, go to room 120, line up against west and north walls.
121	Leave room, go to room 120, line up against east and south walls.
120	Remain in room, line up against east wall.
Up Gym	Leave upper gym, line up against north and east walls of girls' locker room.

**Second Floor**

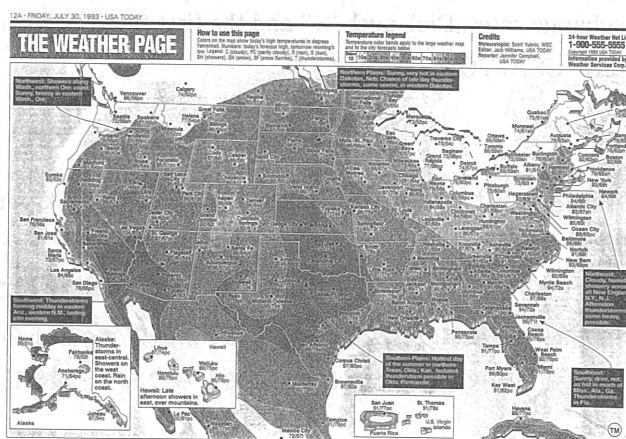
227	Leave room, line up west side of hallway opposite your room.
226	Leave room, line up west side of hallway opposite your room.
225	Leave room, line up west side of hallway opposite your room.
224	Leave room, line up west side of hallway opposite your room.
223	Leave room, line up west side of hallway opposite your room.
222	Leave room, line up west side of hallway opposite your room.
221	Leave room, line up west side of hallway opposite your room.
231	Leave room, use stairs near room 227, go to upper gym, line up against north and east walls.

さらにLDELICの記述を読むと、春と秋に多く発生し、tornado warningという警報が出されることが分かる。またtornado watchもある(山田1982: pp.196-199)。tornadoの語源はフレックスナー(1976)によればtornar「うずまく」というスペイン語の動詞の影響をうけたtornado「雷鳴を伴う風」というスペイン語からできているという。

(2) The Weather Page (USA TODAYより)

資料2

新聞には天気予報がつきものだがUSA TODAYにはTHE WEATHER PAGEという天気予報のページがある(資料2)。その見方に関する説明を読むと天気予報の際に使用される言葉、およびその省略形が分かって良い。



How to use this page

Colors on the map show today's high temperatures in degrees Fahrenheit. Numbers: today's forecast high, tomorrow morning low. Legend: C (cloudy), PC (partly cloudy), R (rain), S (sun), SH (showers), SN (snow), SF (snow flurries), T (thunderstorms).

—USA TODAY (7/1-8/1/93)

さらにTのthunderstormsはT'str/Showersはshoと省略されることがある。引用文中のsnow flurriesの解釈には一考を要する。山田(1982)の指摘通り、日本の和英辞典はもとより、アメリカの辞書そのものも記述がまちまちであるからである。ちなみにflurryは「突風/(一陣の)疾風; <米>(一時の)吹雪。吹降り」(『小学館英和中』)、<一陣の>疾風、突風; <疾風を伴った>通り雨、にわか雪」(『リーダーズ英和』)と記述されており「疾風」を伴うか伴わないかで雪の降り方は違ったものとなる。では英英辞典はどうであろうか。

**flurry:** a sudden sharp rush of wind or rain or light fall of snow: Snow flurries are expected in this evening. [LDEL C s.v. flurry]

**flurry:** a sudden shower or snowfall with a gust of wind. [Web<sup>3</sup> s.v. flurry 1.b.]

**flurry:** A brief light snowfall. [AHCD s.v. flurry 1.]

**flurry:** Chiefly U.S. a sharp and sudden shower. [COED s.v. flurry 1.b.]

以上のように1) 疾風を伴うか伴わないのか、2) 雨、風、雪のいずれかについての語なのか、3) 降り方は断続的であるのか、そうでないのか、という点だけに関してもはっきりとしていない。フレックスナー(1976: 84-85)に掲載されている「flurry+of+名詞」の型を見るとますます複雑怪奇な語である。(cf.山田1982: 153)

**flurry** 「断続的に降ること」

**flurry of hail** 「断続的なあられ」, 1686年。

**flurry of wind and rain** 「断続的な雨風」, 1772年。

**flurry of snow** 「断続的なにわか雨」, 1883年。

USA TODAYでは紙面による天気予報の情報提供はもとより、電話による情報提供サービス(24時間・有料)がある。電話番号は1-900-555-5555で1分間あたり95¢。その電話のかけ方の説明は次の通り。

Dial, then push "1" and the area code of desired U.S. city. For foreign weather and retail currency exchange rates: Dial, push "1" and the first three letters of a city's name. (Or use your credit card by calling 1-800-USA-TODAY)

——USA TODAY (7/1-8/1/93)

この説明後半にある電話番号(1-800-USA-TODAY)はvanity numberである(cf.渡部1993)。電話の数字のところにアルファベットがあるのでその通りに押せばよい。また利用者がしばしば行う電話番号の語呂合わせのようにUSA TODAYと覚えておけばよい為、便利である。このような表現は、新聞広告で盛んに使用される。意味のない数字の組み合わせよりも、アルファベットの組み合わせで自社の製品の売り込みができたり、消費者により強い印象を与えることができるからである(渡部1993:112)。

#### 4. アメリカの学校生活に関する英語

##### (1) SATs

日本の高校生達の中で、大学へ進学するためにしのぎを削って学業に勤しんでいるものがあることは、今更解説するまでもないが、アメリカの高校生はどうであろうか。アメリカでも学年が上がるにつれ、進学に関する不安からついグレードに神経質になる親もいる(スキルマン1991:251)。特に11年生と12年生の成績は重要視される。この平均を出したものをGPA(Grade Point Average)といい、応募する大学へ送ることとなる。このGPAと全国共通試験(SATやAchievement Test)の点数が大学合格を左右する一つの大きな要素となる。ではSATとはいかなるテストなのか。次の引用はこのSATに関する記述である。

The SATs—stands for Scholastic Aptitude Test, but the shortened version is always used in the plural—are administered by the Educational Testing Service and, of course, are the most intimidating thing that happens to a boy or girl during his or her high school career. The SATs measure verbal and mathematical abilities; the results of the tests, figured against a scale of eight hundred points, are sent to university admissions offices, and play a significant role in determining whether a high school student will get into a particular college.

——Bob Greene, *Cheeseburgers*. Kodansha, 1989, p.49.

このSAT/SATsは年一回、秋から冬にかけて実施される。大学側はGPAに対しては大学の募集要項や情報誌に大学の要求する数値が発表されるが、SATに関しては合格点の発表はない(スキルマン1991:251)。Bob Greene, *Cheeseburgers*によれば「全米で160万人のhigh school juniors and seniorsが毎年受験している」ことが分かる。ではなぜseniorだけでなくjuniorも受験しなければならないのか。LDELICを読めば即座に理解できる。

**SAT:** the Scholastic Aptitude Test; a two-part examination which must be taken by all students who wish to attend US universities. The PSATS, (the first tests) are usually taken during a student's JUNIOR year in HIGH SCHOOL; these results are made available to colleges and universities. Students in their SENIOR year take the SATS, and have results sent to colleges they hope to attend. Universities consider the results of the test (SAT scores or SATs) to help them decide which students will be offered a place. A perfect result is 1600, or 800 for the VERBAL test., 800 for the math (MATHEMATIC) test.

[LDELIC s.v. SAT]



ちなみにPSTAとはPreliminary Scholastic Aptitudeのacronym(頭字語)でこの段階で良い成績を取るとNational Merit Scholarshipを手にする可能性が出てくる(LDELIC)。このNational Merit Scholarshipとは「<米>成績優秀な高校生(National Merit Scholars)に与えられる大学奨学金制度のこと」を意味する(『ランダムハウス英和』)。

(2) GPA

GPAとはGrade Point Average (AHCD) のことであるが、これだけでは詳細に理解はできない。山田(1986: 110-111)には次のような解説がある。

成績評価A、B、C、D、それにFにそれぞれ点数4、3、2、1、および0を与え、当該教科の単位数を掛けたものがgrade point (換算評点)である。これから

$$\frac{\text{換算評点}}{\text{単位数合計}} = \text{grade point average (学業平均値)} \text{ となる。}$$

高橋(1993: 231)にはこの成績の配分の内訳に関する資料がある。それによれば、成績分配は次の通り。

A = 90点
B = 80点-89点
C = 75点-79点
D = 70点-74点
F = 69点、あるいはそれ以下。

この資料はSAN FELIPE DEL RIO CONSOLIDATED INDEPENDENT SCHOOL DISTRICT (サン・フェルベ／デル・リオ合同独立学区)『教師ハンドブック』(1992-1993)から抜粋されたものである。この『教師ハンドブック』は合同学区の教育目標、教師向けの各種職務遂行要領がまとめられており、教師の勤務態様が具体的に読み取れる(高橋1993: 205-242)。

ところでDAVEY MIDDLE SCHOOL, FACULTY HANDBOOK 1993-94には、評点が75%に満たない生徒に対してとられる措置がきちんと明記されている(資料3)。

(3) Bell; Time schedule

竹田(1993: 156-157)は、「始業ベル」をwork bell、「予鈴」、「本鈴」を、first bell、second bell、と説明している。一方DAVEY MIDDLE SCHOOL, FACULTY HANDBOOK 1993-94には、特に「朝一番早く鳴る、学校の始まりのベルをMorning Locker Bellとしている。また一日の時間割についての説明部分はあまり目にする事のない資料であり興味深い。

資料3

ELIGIBILITY GUIDELINES

Eligibility guidelines for all sports and all extracurricular activities shall be on a grading period basis. Below are the guidelines and procedures for eligibility.

1. Students who do not pass seventh-five percent of their courses shall not be eligible to participate in any extracurricular activity the succeeding grading period. If the grades are brought up to eligibility standards at the end of the grading period, students may participate the following grading period.
2. Seven-week course grades will be given to the guidance secretary after seven-week period is over.
  - a. If a student fails a seven-week class and then fails a nine-week class (and these failures mean the student is not passing 75% of the classes), the ineligibility will start after the nine-week grade has been received.
  - b. If a student fails a nine-week class and then fails a seven-week class (and this failure means the student is not passing 75% of the classes), the ineligibility will start after the seven-week grade has been received.
3. Grades for nine-week courses shall come from the report cards every grading period.
  - a. Incomplete grades that may determine if a students is eligible or not must be completed before the student participates in the activity.
  - b. Eligibility for a student will start at the beginning of a grading period and end on the last day of a grading period. Students can be eligible or ineligible after the seven-week, or nine-week grading periods.
  - c. Extracurricular means any type of school sanctioned activity that is not part of the school curriculum and meets or practices after school, evening, or weekends.
4. The guidance secretary shall be responsible for going through the report cards and making a list of all extracurricular participants who have not passed 75% of their classes. A list of these students shall then be given to all staff members and coaches.
5. Parents shall be informed of the eligibility guidelines and procedures in the first school Newsletter.
6. At the discretion of the coach, students who are ineligible may practice, but not play in games.
7. The eligibility guidelines shall be evaluated on a yearly basis to determine effectiveness and whether any changes should be made.

## 資料 4

Students who have an excuse to be dismissed early should report to the attendance secretary between 7:20 and 7:35 a.m.

Morning locker bell for students rings at 7:30 a.m. Teachers are to arrive by 7:20 a.m. and be in or near homeroom at 7:30 a.m.

Extended homeroom for beginning-of-the-year tasks will not be on a daily basis. You will be notified if the homeroom period needs to be extended on a particular day during the beginning of the school year.

All teacher should remain fifteen minutes after the closing of school except when the teacher has other professional duties that require an earlier departure.

MORNING LOCKER BELL: 7:30 A.M.

Homeroom	7 : 38 – 7 : 50
1th Period	7 : 53 – 8 : 35
2th Period	8 : 38 – 9 : 20
3th Period	9 : 23 – 10 : 05
4th Period	10 : 08 – 10 : 50
5th Period	10 : 54 – 11 : 36
6th Period	11 : 40 – 12 : 22
7th Period	12 : 26 – 1 : 08
8th Period	1 : 11 – 1 : 53
9th Period	1 : 56 – 2 : 38

## (4) Detentions

『新リトル英和』でdetentionを見ると「引き留められること；抑留；留置、監禁」とある。またdetention home <米>、detention centre <英>はさらに物騒で「少年院」の意味となる。『最新情報』によればこの語は主に英国で使われ、「非行少年収容所、短期少年院：14歳から21歳まで非行少年を短期間（6カ月まで）収容して更生させる施設」とある。綴りはdetention center <米> / centre <英>。しかし学校生活の中で日常的に使う時は次の意味で使う。

**Detention:** the state of being kept in school after school hours as a punishment, use. for disobeying a school rules; He was kept in detention for talking during classes. | I've had three detentions this semester.

[LDELIC s.v. **detention** 2]

**detention**<名> 1 (無理に) 引き止める [られる] こと。2 拘留, 留置, 抑留; (罰としての) 放課後の留め置き。<動> detain.

[『ニューセンチュリー英和 (CD-ROM版)』 s.v. **detention**]

DAVEY MIDDLE SCHOOL, FACULTY HANDBOOK 1993-94にはこのdetention(s)に関する項目がある。この項目には、detentionsそのものについての学校の考え方、それが課される状況が分かり興味深い(資料5)。

特に食事時にかかる場合をLunch detentionsと言う。この語についての記述は面白く、「生徒がきちんと食事をとる権利」を保証しようとしている箇所から、処罰の行使中であっても、個人の権利を大切にしていることが読んで

## 資料 5

DETENTIONS

Detentions are one way of possibly changing a student's behavior or having some impact on a discipline problem. Detentions should not be given out quickly and indiscriminately. When detentions are given indiscriminately, they may become ineffective, and therefore you have lost one good method of changing behavior.

The following are some suggestions to try before using detentions to discipline a student.

1. Review the rules and make sure the student understands them.
2. Warn a student.
3. Move the student's seat.
4. Talk to the student after class to try to ascertain why the student is not doing what is expected.

Below are some hints about detentions.

1. Keep a record of who gets a detention and when. This information can then be used in future telephone calls or conferences with parents.
2. If you are continually giving detentions to the same student, then the detentions are not having the proper effect on the student. Another method must be used instead of detentions.
3. Before the student leaves your class, remind the student (one on one) of the detention the next day.
4. Teachers are responsible for supervision of students if they give after-school detentions. Students take after-school detentions the day after they are assigned. This gives the students an opportunity to let their parents know about the detentions and provide a way home.
5. Detentions may be given for problems such as:
  - a. late to class repeatedly;
  - b. forgetting materials or books repeatedly;
  - c. leaving seat without permission during class repeatedly;
  - d. disturbing the class or teacher;
  - e. talking back to the teacher (could result in an immediate suspension if the situation warrants);
  - f. not responding to the teacher's request.
6. Lunch detentions may be given to students by teachers. These detentions must be held in the teacher's room. If you give a student a lunch detention, the student must have adequate time to eat lunch during the detention.
7. Teachers are not to give lunch detentions that are to be served in the in-school suspension center (ISSC).

取れる。しかもこのような処置の手順がマニュアル化され、口頭ではなく文字として関係者に対し周知徹底されていることは驚きである。

写真10



## 5. DSTS

オハイオ州立ケント大学構内を歩くと、様々な道路標識に出会うことができる。写真10に写っている標識の中でDSTSとは何であろうか。まず頭に浮かぶのはD.S.T./DST (Daylight Saving Time)。これは「日光節約時間、夏時間、サマータイムと言ひ、夏期に時計を1時間または2時間進めて日中時間を多く利用する(『リーダーズ英和』)」ことである。しかしながらこの標識内には車椅子が描かれており日光節約時間とは関係なさそうである。インフォーマントFに聞いたところ次のような解答が得られた。

DSTS is an acronym for “Disabled Student Transportation System.” This system is a bus service that has special vehicles used to transport handicapped students. A bus may have an elevator in order to lift wheelchair into it.

## III まとめと今後の課題

この稿の「はじめに」に出てくるIsaac Reed (オーストラリア；中学生) は、本校の「集会」の多さに驚いていた。もっとも本校の「集会」の数は恐らく他の日本の国立・公立学校と比較して特別多いわけではない。手元にある和英辞書で「集会」を調べると、a meetingという英語が見つかりはする。(『新和英中』)。しかし、それは単なる日本語と英語の置き換えにすぎず、日本の中学校における「集会」という語の裏にある文化情報まで完璧に伝えることは到底無理であろう。もし仮にできるとすればかなりの文章の量で表現しなければ、正しく伝えられるとは言い難い。

現在出版される文献や新聞の記事の中には、「国際交流／理解」に関するものが驚くほど多い。しかしながらこの国際理解という言葉のみが一人歩きをしている感があり、やや抽象的な概念となっている。何を具体的にどうすれば良いのか明確に記述されているものは少ない。

では「国際理解」という語を取り上げ、一体何を「理解」しようとするのかその対象を考えた場合、どのような対象が考えられるであろうか。恐らくもっとも小さな単位は、「何処の国の、何々という人々・もの」についての小さな情報である。さらに複雑なことに語句が同じでも、言語・文化が違えばそれにまつわる連想もいろいろに異なりうる(國廣1982:143)。そのひとつひとつの小さな差・違いの分析・理解が積み重なり、かつ統合されてこそ、真の国際理解・国際交流ができるのではないか。

松江市にある国際交流センターの国際交流員の一人に、中国人(女性)がいる。中国には色々な民族・宗派がある。その交流員によれば民族の数は56にもものぼり、宗教は、大乘／小乗仏教、イスラム教、キリスト教、ラマ教等かなりの数が存在すると言う。彼女はイスラム教徒であり豚肉を口にすることはない。ではそのような色々な人種・宗派の子どもが通う学校生活はどうなるのだろうか。学校で生徒たちはそれぞれの宗教を尊重するよう教育される。また驚くことに学校内の食堂は豚肉のでもものとそうでないものがあるという。さらに生徒たちは異なった宗教を信条とする友人とともに食事を取ることもちろんあり、お互いの文化の違いを知っているからこそ異文化を認め合うことができるのだという。

江崎・守口(1988)は日本に住む外国人の本音のインタビュー集とでも言うべき本で書名は『在日外国人』であ

る。その編者の一人、江崎はインタビュー中、何人かのアメリカ人に「どうしてそういう本をつくるのか。」と不思議がられたという。人種のるつぼアメリカから来ている彼らにとっては、一つの国に様々な人種がいるのは当たり前で、とりたててテーマにするようなことではないのである。

1994年現在、日本の正規入国外国人数は3,747,157人(前年度比-4.6%)である(『データブック日本'95』)。我々の日常生活において、「頻繁に海外の人と接し、英語(他の外国語)を使わねば意志の意志の疎通が図れない状況にある人」もいれば、一方で「英語(他の外国語)など使わなくとも困らない人」もいるであろう。しかしながら、情報が驚くべき速さと量をもって世界を駆けめぐる今日、自国にはない文化・生活習慣・宗教・人種について深く理解でき、またその違いを理解した上で、他を尊重していこうとする態度やものの考え方はこの先かなり重要となってくるであろう。

今後も各国のインフォーマント・文献から得られる、小さな一つ一つの情報をもとに、より大きな異文化理解と情報の統合ができるよう研究を続けていくつもりである。とくに*DAVEY MIDDLE SCHOOL, FACULTY HANDBOOK 1993-1994*には、アメリカの中学校についての制度や学校運営、また生活一般に関してまだまだ貴重な情報が残っており、研究の余地がある。またアメリカ・イギリスと並んでオーストラリアの文化・風習、アボリジニーも研究を深めていきたい研究対象である。

末筆ではあるが、直接、および私信等で情報を提供して頂いたインフォーマントの方々や、資料提供・助言を頂いた島根大学教育学部附属中学校・英語科の諸先生に深くお礼を述べたい。特にインフォーマントR親子にはオーストラリアの生活習慣・食文化・学校・アボリジニー等の調査、資料提供に協力して頂き、大変お世話になった。また、山田政美先生には原稿にお目通し頂き助言を頂いた。厚く御礼申し上げる。

#### インフォーマント

インフォーマントF:

(Kile Friedow; 男性; アメリカ合衆国、オハイオ州、ケント州立大学講師。)

インフォーマントM:

(Christina Mcbay; 女性; アメリカ合衆国、オハイオ州、ケント州立大学講師。)

インフォーマントP:

(Craig F. Paulenich; 男性; アメリカ合衆国、オハイオ州、ケント州立大学教授。)

インフォーマントR:

(Isaac Reed; 中学生; オーストラリア、ニューサウスウェールズ州、中学生。)

参 考 文 献

英英辞典

- Longman Dictionary of English Language and Culture*. London: Longman. 1992. [LDELC]  
*Longman Language Activator*. London: Longman, 1993. [LLA]  
*The American Heritage College Dictionary*. Third edition. Boston: Houghton Mifflin Company. 1993.  
[AHCD]  
*The Compact Oxford English Dictionary*. Second edition. New York: OUP. 1991. [COED]  
*The Little Macquarie Dictionary*. Sydney: The Macquarie Library. 1983. [LMD]  
*Webster's Third New International Dictionary of the English Language with Seven Language Dictionary*.  
Springfield, Mass. : Merriam Webster. 1986. [Web<sup>3</sup>]

英和・和英辞典

- 『現代英和辞典』研究社。1976。[『現代英和』]  
『最新英語情報辞典』第2版。小学館。1986。[『最新情報』]  
『小学館プログレッシブ英和中辞典』第2版。小学館，1987。[『小学館英和中』]  
『新リトル英和辞典』第6版。研究社。1994。[『新リトル英和』]  
『新和英中辞典』第3版，研究社。1983。[『新和英中』]  
『ニューセンチュリー英和辞典』CD-ROM版。三省堂。1992。[『ニューセンチュリー英和 (CD-ROM版)』]  
『ランダムハウス英和大辞典』第2版。小学館。1993 [『ランダムハウス英和』]  
『リーダーズ英和辞典』研究社。1984。[『リーダーズ英和』]

洋書文献

- Flexner, S.B. (1976), *I Hear American Talking*. New York: Van Nostrand Reinhold.  
(R.C.ゴリス訳編 (1991), 『フレックスナー アメリカ英語辞典』第2版 東京：秀文インターナショナル。)  
Greene, Bob (1989), *Cheeseburgers*. Tokyo: Kodansha and Kodansha International.  
————— (1991), *He Was a Midwestern Boy on His Own*. New York: Ballantine Books.  
Nicholson, Margaret (1993), *The Little Aussie Fact Book*. 5th edition. Victoria: Penguin Books.

和書文献

- 江崎泰子・森口秀志 (1988), 『在日外国人』東京：晶文社。  
國廣哲彌 (編) (1982), 『発想と表現』日英語比較講座 第4巻。東京：大修館書店。  
パン (1982), 「呼称の社会学」(國廣哲彌 (編) (1982), 『日英語比較講座 第5巻 文化と社会』東京：大修館書店。) pp.61-82。  
スキルマン, H.圭子 (1991), 『アメリカ暮らしの英語』東京：創元社。  
鈴木孝夫 (1982), 「自称詞と対称詞の比較」(國廣哲彌 (編) (1982), 『文化と社会』日英語比較講座 第5巻。東京：大修館書店。pp.17-59。)  
高橋建男 (1993), 『アメリカの学校—規則と生活』東京：三省堂。  
竹田明彦 (1989), 『学校用語英語小辞典』東京：大修館書店。  
田崎清忠 (1993), 『アメリカ日常語辞典』, 東京：講談社。[『アメリカ日常語』]

- 立花 隆 (1984), 『「知」のソフトウェア』東京：講談社。
- 比嘉正範 (1982), 「会話構造の比較」(國廣哲彌 (編) (1982), 『文化と社会』日英語比較講座 第5巻。東京：大修館書店。pp.83-106.)
- 山田政美 (1982), 『現代アメリカ語法—フィールドノート—』東京：研究社出版。
- (1986), 『アメリカ英語の最新情報』東京：研究社出版。
- (編) (1990), 『英和商品名辞典』東京：研究社。
- 渡部睦浩 (1993), 「言葉の背景にある情報を教える—第1学年の指導を通して」『研究紀要』第36号。島根大学教育学部附属中学校, pp.107-116.

#### その他の資料

- 『データブック日本'95』東京：集英社。
- (『情報・知識imidas1994』東京：集英社。)[『データブック日本'95』]
- DAVEY MIDDLE SCHOOL, FACULTY HANDBOOK 1993-1994.*
- Sunshine English Course 2.* 東京：開隆堂, 1992。

(わたなべ むつひろ・英語科)